



第94期 中間報告書

2019年4月1日 ▶ 2019年9月30日



ダイジェット工業株式会社

証券コード：6138

● 株主の皆様へ



代表取締役社長 生悦住 歩

株主の皆様には、平素は格別のご支援を賜わりまして、ありがとうございました。誠に厚くお礼申し上げます。

ここに、当社グループ第94期第2四半期（2019年4月1日から2019年9月30日まで）の事業の概況および四半期決算についてとりまとめましたので、ご報告申し上げます。

2019年12月

事業の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、内需に底堅さがみられるものの、長期化した米中間の貿易摩擦、英国のEU離脱問題、中東での地政学的リスクの高まり等による外需の弱さが、製造業の業績に陰りを広めつつあり、景気の減速に注視が必要な状況です。

こうした中、当社グループにおきましては、好評の高効率高送りカッター「ショルダーエクストリーム」や多機能刃先交換式座ぐり加工用ドリル「TAタイヤモジュラーヘッド」などのラインナップ拡充を中心に新製品を発売いたしました。

また、見本市では、国内においては、「MF-TOKYO2019」に初出展し、当社が注力するレアメタル不使用の硬質金型新材料「サーメタル・CT500シリーズ」をPRし、新規業界での採用や用途開発に積極的に取り組むとともに、海外においても、「ドイツ・ハノーバーで開催の「EMO Hannover 2019」に出展し、商品PRや販売促進活動を積極的に行い、販売の拡大につとめました。

連結売上高は、前年同期比8.7%減の4,676百万円となりました。このうち国内販売は前年同期比6.2%減の2,765百万円となり、輸出は同12.2%減の1,910百万円となりました。輸出の地域別では、北米向けが前年同期比4.8%減の414百万円、欧州向けが同12.1%減の510百万円、アジア向けが同14.3%減の962百万円、その他地域向けが同33.8%減の23百万円となり、この結果、連結売上高に占める輸出の割合は、前年同期に比べ1.5ポイント減少し40.9%となりました。

製品別では、焼肌チップが前年同期比21.2%減の498百万円、切削工具が同5.7%減の3,554百万円、耐磨耗工具が同13.0%減

の617百万円となりました。

収益面では、売上高が減少したこと等により、連結営業利益は前年同期比42.5%減の247百万円となり、経常利益は同48.4%減の237百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同48.8%減の149百万円となりました。

なお、当期の中間配当につきましては、総合的に判断し、期初の配当予想のとおり、見送りとさせていただきます。

今後の見通し

わが国産業界におきましては、引き続き内需に底堅さがみられるものの、一方で米中間の貿易摩擦の深刻化・長期化、英国のEU離脱問題、中東の地政学的リスクの高まり等による外需環境の悪化が製造業の業績に影響を及ぼし始めており、引き続き景気の減速に注視が必要な状況が続いております。

当社グループといたしましては、引き続き、全社を挙げて、営業・技術・製造が一体となり、得意商品の受注生産体制の確立に取り組むとともに、国内においては、得意商品の拡販につとめ、市場ニーズを捉えたサービス体制の見直し、全社バックアップ体制の推進等により得意商品を創造・育成できる国内販売体制への転換を目指し、海外においては、拠点の整備・確立により本社との連携強化を図り、海外人材の育成も含めた持続可能な世界販売体制を構築し、海外事業の一層の進展を図ってまいります。

また、徹底した原価低減を行うとともに、製造工程の自動化・無人化・省人化によるアワーレートの低減に取り組み、生産性改革を推進して収益性の向上につとめてまいります。

新製品開発につきましては、「高速・高効率・高精度」をキーワードとして、顧客・営業ニーズから世界市場を見据え、販売戦略をベースに最速製品化を実現できる新製品開発体制を再構築するとともに、市場およびユーザーニーズに応じた提案型商品、革新的なオリジナル商品およびコア商品の開発を推進し、新材種や新技術を用いた高付加価値製品の開発にも注力してまいります。

人材育成につきましては、人的資源の活用基盤を整備するため、人材育成を促す新人制度を導入し、人材の成長およびモチベーションの向上を図ってまいります。また、働き方改革および健康経営を推進し、生産性の向上と労働環境の整備にもつとめてまいります。

さらに、企業の社会的責任を自覚し、コーポレートガバナンスのさらなる充実を図り、コンプライアンス体制の整備および運用につとめるとともに、大規模自然災害への対策を推進し、環境保全活動および社会貢献にも引き続き取り組んでまいります。

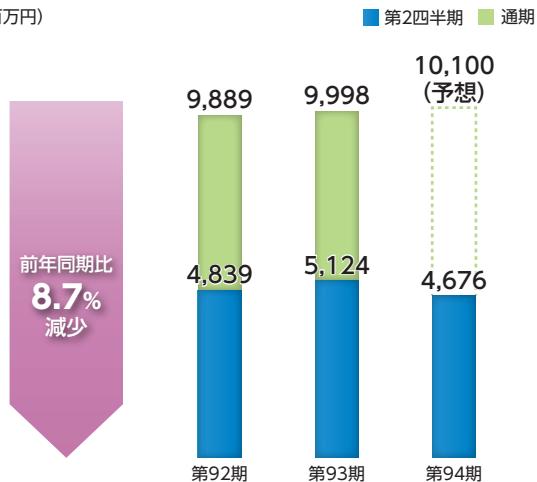
これにより、当社グループの第94期連結業績予想は、売上高は前連結会計年度比1.0%増の10,100百万円、営業利益は同10.4%増の500百万円、経常利益は同7.1%減の500百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は同14.1%減の350百万円を見込んでおります。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 連結決算ハイライト

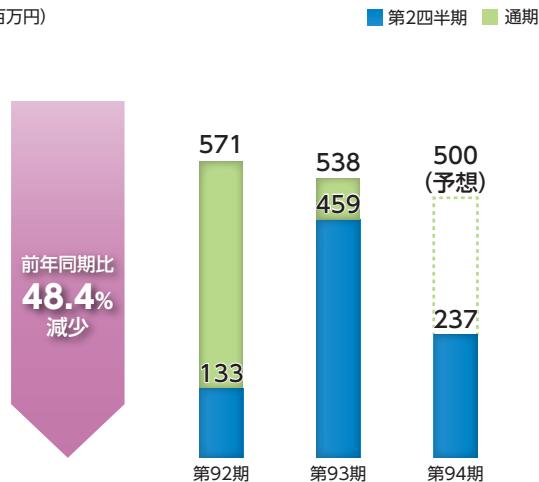
▶ 売上高

(百万円)



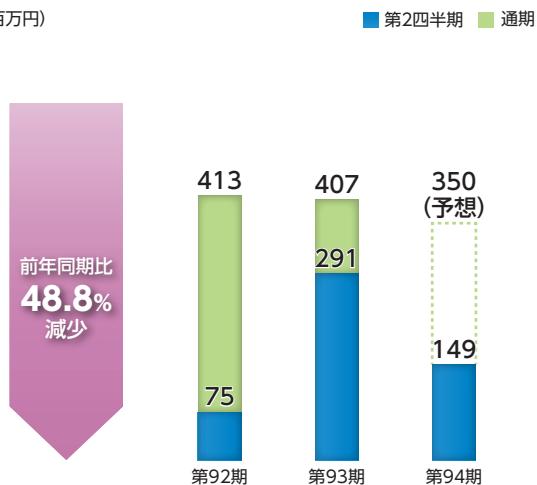
▶ 経常利益

(百万円)



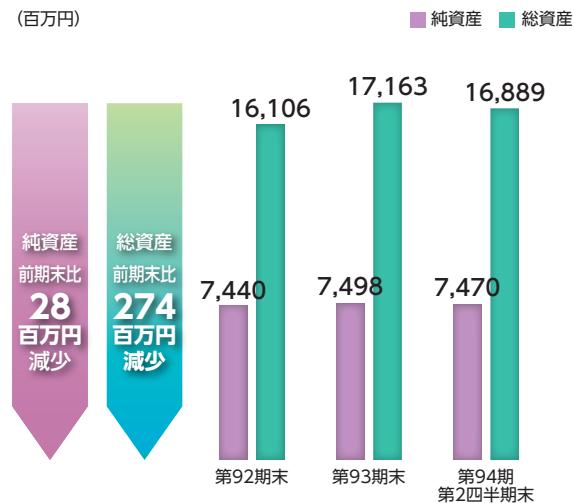
▶ 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

(百万円)



▶ 純資産／総資産

(百万円)



※「[税効果会計に係る会計基準]一部改正」(企業会計基準第28号平成30年2月16日)等を第93期の期首から適用しており、第92期については当該会計基準等を遡って適用しております。

● トピックス

環境調和製品の開発

当社は、地球環境の保全、汚染の予防を認識し、循環型社会の視点（3R：Reduce, Reuse, Recycle）に立った事業活動を展開しております。製品開発においては2007年度に始まった超硬工具協会（現・日本機械工具工業会）の「環境調和製品認定制度」に積極的に参加し、当事業年度もこれまでに3点の新製品が認定され、認定数は通算74点（2019年10月現在）となりました。

当社では今後ともより一層環境に配慮した製品開発を推し進めてまいります。



環境製品認定ラベル

2019年度認定の主な環境調和製品

■ 『ハード1 ボール』

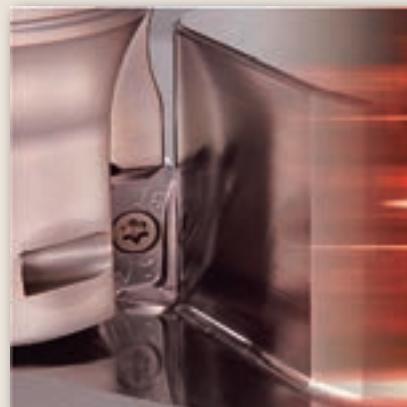
高硬度材加工において高能率加工を実現した、2枚刃ソリッドボールエンドミル。新材種「DH110」を採用し、高硬度材の荒加工から仕上げ加工まで対応可能。刃長1Dのスーパーショートタイプ仕様で焼きばめホルダやハイドロツーリングとの組合せにより高精度、長寿命な加工を実現。



ハード1 ボール

■ 『ショルダーエクストリーム』

荒加工から中仕上げ加工において、高精度・高能率加工が可能な刃先交換式肩削りリカット。肩削り軸方向切込み量（ap）が最大15mmと大きく、平面削り・溝削り・プランジ加工など幅広い用途で使用可能。



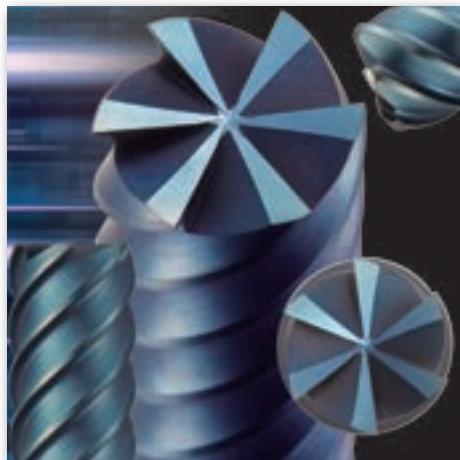
ショルダーエクストリーム

新製品

当事業年度上期におきましては、主力の金型加工用工具を中心に、加工能率・生産性を高める新製品の開発ならびに既存製品のバージョンアップを進めました。主な新製品は次の通りです。

■ 『DHコートワンカット70』

70HRC高硬度材の加工が可能なスクエアエンドミル「ワンカット70」に新コーティング被膜「DH1」を採用しリニューアル。高硬度材の高速加工、長寿命化を実現し、従来品からさらに加工能率と加工寿命を向上。高強度なコーナRタイプも揃え、高硬度材の高能率加工に対応。



DHコートワンカット70

■ 『TAタイラーモジュラーヘッド』

金型の穴加工や座ぐり加工において複数の段取り工程を集約化できる、先端角180°フラット・モジュラータイプの刃先交換式ドリル。サイズバリエーションを拡張し幅広い穴あけ加工に対応できるラインナップを揃えた。オール超硬シャンクアーバ「頑固一徹」との組み合わせにより突出しの長い加工にも対応。



TAタイラーモジュラーヘッド

● 四半期連結財務諸表（要旨）

■ 四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 2019年3月31日	当第2四半期 連結会計期間 2019年9月30日
1 資産の部		
流動資産	8,484,386	8,001,095
固定資産	8,679,510	8,888,765
有形固定資産	6,526,802	6,812,052
無形固定資産	78,724	75,976
投資その他の資産	2,073,983	2,000,735
資産合計	17,163,896	16,889,860
2 負債の部		
流動負債	4,714,748	3,913,532
固定負債	4,950,836	5,506,089
負債合計	9,665,584	9,419,621
3 純資産の部		
株主資本	7,081,520	7,126,660
資本金	3,099,194	3,099,194
資本剰余金	1,703,329	1,703,329
利益剰余金	2,324,579	2,369,988
自己株式	△45,582	△45,851
その他の包括利益累計額	416,791	343,578
純資産合計	7,498,312	7,470,238
負債純資産合計	17,163,896	16,889,860

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書（単位：千円）

	前第2四半期 連結累計期間 自 2018年4月 1日 至 2018年9月30日	当第2四半期 連結累計期間 自 2019年4月 1日 至 2019年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	611,972	285,225
投資活動によるキャッシュ・フロー	△691,090	△912,235
財務活動によるキャッシュ・フロー	124,296	221,949
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,358	△7,856
現金及び現金同等物の増減額	49,537	△412,916
現金及び現金同等物の期首残高	2,026,444	1,686,474
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,075,981	1,273,557

■ 四半期連結損益計算書

（単位：千円）

	前第2四半期 連結累計期間 自 2018年4月 1日 至 2018年9月30日	当第2四半期 連結累計期間 自 2019年4月 1日 至 2019年9月30日
4 売上高	5,124,895	4,676,792
売上原価	3,344,219	3,106,861
売上総利益	1,780,676	1,569,931
販売費及び一般管理費	1,350,420	1,322,402
5 営業利益	430,255	247,528
営業外収益	48,661	46,989
営業外費用	19,452	57,386
5 経常利益	459,465	237,132
特別利益	1,543	278
特別損失	35,463	8,905
税金等調整前 四半期純利益	425,545	228,504
法人税、住民税及び 事業税	143,142	80,448
法人税等調整額	△9,453	△1,391
四半期純利益	291,856	149,448
5 親会社株主に帰属する 四半期純利益	291,856	149,448

【四半期連結財務諸表（要旨）】ポイント

■ 四半期連結貸借対照表

POINT ① 資産の部⇒274百万円減少

【流動資産 483百万円減少】

商品及び製品130百万円、仕掛品107百万円各増加、現金及び預金412百万円減少。

【固定資産 209百万円増加】

減価償却費の計上により442百万円減少、設備投資の実施737百万円増加、株価下落による投資有価証券の評価額67百万円減少。

POINT ② 負債の部⇒245百万円減少

【流動負債 801百万円減少】

支払手形及び買掛金111百万円、電子記録債権260百万円各減少。

【固定負債 555百万円増加】

長期借入金202百万円、リース債務400百万円各増加。

POINT ③ 純資産の部⇒28百万円減少

【株主資本 45百万円増加】

親会社株主に帰属する四半期純利益149百万円増加。

【その他の包括利益累計額 73百万円減少】

株式の時価評価等による減少。

■ 四半期連結損益計算書

POINT ④ 売上高⇒前年同期比8.7%減少

国内は同6.2%減少、海外は北米向けが同4.8%、欧州向けが同12.1%、アジア向けが同14.3%各減少。海外売上比率は同1.5ポイント減少し、40.9%へ低下。

POINT ⑤ 営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益

売上高の減少により利益が前年同期比で大幅に減少。

● 株式情報 (2019年9月30日現在)

■ 株式の状況

発行可能株式総数	8,000,000 株
発行済株式の総数	2,992,999 株
株主数	2,393 名

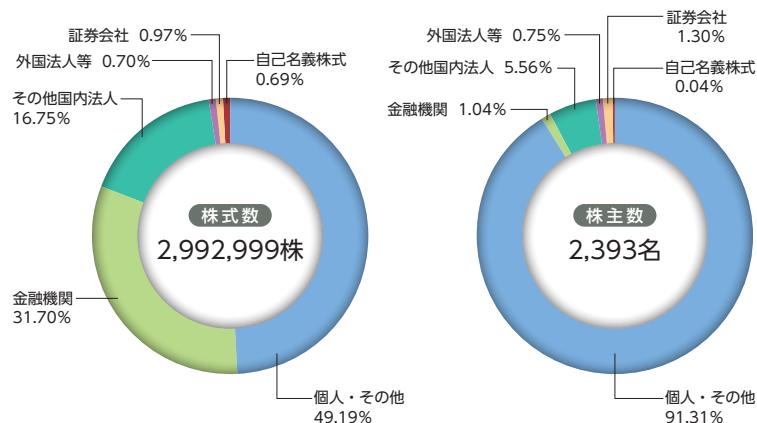
■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
ダイジェット取引先持株会	181	6.11
ダイジェット持株会	172	5.79
株式会社みずほ銀行	147	4.97
生悦住望	133	4.48
株式会社三菱UFJ銀行	124	4.19
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	92	3.10
シルバーロイ株式会社	90	3.03
明治安田生命保険相互会社	85	2.88
共栄火災海上保険株式会社	82	2.79
株式会社不二越	70	2.36

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

2. 持株比率は、自己株式(20,643株)を控除して算出しております。

■ 株式の分布状況



● 会社情報 (2019年10月1日現在)

■ 役員状況

代表取締役会長	生悦住	望
代表取締役社長	生悦住	歩
常務取締役 経営企画部長	古林	雄一
取締役 技術部長	中田	敏也
取締役 総務部長兼経理部長	安藤	信夫
取締役 常勤監査等委員	まつ松	本泰
取締役(社外) 監査等委員	こ小島	やす康
取締役(社外) 監査等委員	ひら平	井満

■ 事業所および主要な子会社等

国内拠点

- 本社 (大阪市平野区)

販売拠点

- 東京支店 (神奈川)
- 北関東営業所 (群馬)
- 仙台オフィス (宮城)
- 名古屋支店
- 大阪支店 (大阪市平野区)
- 広島営業所
- 富山オフィス

生産拠点

- 大阪事業所 (大阪市平野区)
- 三重事業所 (伊賀市)
- 富田林工場 (大阪)

海外拠点

- 上海駐在員事務所 (中国)
- 広東駐在員事務所 (中国)
- 大連支所 (中国)
- 武漢支所 (中国)
- 成都支所 (中国)
- バンコク駐在員事務所 (タイ)
- ムンバイ駐在員事務所 (インド)

主要な子会社等

- DIJET INC. (米国)
- DIJET GmbH (ドイツ)
- 黛杰漢金 (滄州) 精密模具有限公司 (中国)

● 事業所 ● 子会社 ● 関連会社

■ 会社の概要 (2019年9月30日現在)

社 名 ダイジェット工業株式会社
(DIJET INDUSTRIAL CO., LTD.)
設 立 1950年12月
資 本 金 3,099,194,104円
従 業 員 数 506名 (うちパート等100名)
事 業 内 容 超硬合金、超硬工具の製造販売
ホームページ <https://www.dijet.co.jp/>

■ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月中
基 準 日 定時株主総会の議決権 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日

公告方法 電子公告 <https://www.dijet.co.jp/>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人
および特別口座
の口座管理機関
みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

郵便物送付先
および連絡先 〒168-8507
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話番号 0120-288-324 (フリーダイヤル)

(株主に関する)
各種お手续

届出住所・姓名などの変更、配当金の振込先の指定または変更、単元未満株式の買取・買増請求などにつきましては、口座開設されている証券会社(証券会社に口座開設されていない株主様は、上記の特別口座の口座管理機関(みずほ信託銀行株式会社))へお届出ください。

なお、未受領配当金(ゆうちょ銀行の払渡期間経過後)のお支払いにつきましては、上記の株主名簿管理人(みずほ信託銀行株式会社)までお申出ください。

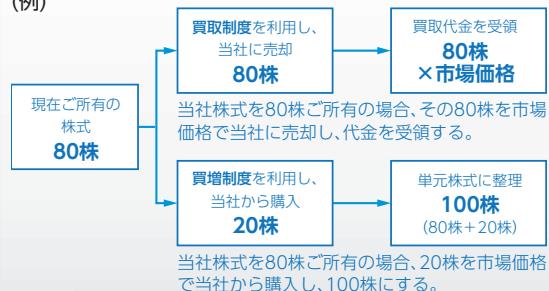
単元未満株式の買取・買増請求のご案内

当社の単元株式数は100株となっておりますので、100株未満の単元未満株式は市場で売買することができます。

単元未満株式をご所有の株主様は当社に対して単元未満株式を売却する(買取請求)、または単元株式となるよう不足する株数の株式を当社より購入する(買増請求)ことができます。

お申出先につきましては、左記の株主メモをご参照ください。

(例)



DIJET INDUSTRIAL CO., LTD.

〒547-0002

大阪市平野区加美東2丁目1番18号

TEL.06 (6791) 6781 (代表)



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

この報告書は、環境に配慮し、植物油インキを使用しております。